

基本情報			
科目	関係法規・制度	実務経験の有無	○
授業形態	講義	必修選択	必修
年次	1年次	2年次	合計
授業時間数	0	30	30
取得単位	0	1	1

授業内容・学習目的等	
授業概要	①美容師法を中心に、関連するさまざまな法律の基本用語や内容の理解 ②美容師国家試験頻出問題の解き方の習得 ③美容師として必要な種々の具体例について関心を高め、自ら考え、意欲的に学ぼうとする姿勢
学習目的 (実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか)	美容師養成施設での講師歴5年以上(関係法規・制度を担当した)の教員から、美容師法を学び、美容師として公衆衛生の向上に役立てること、また法令違反をした場合の行政処分や罰則について学び、法令順守を理解する。美容業に関連する様々な法規について学び、美容師として、開設者として遵守すべき法令や知識を学ぶ。
授業の到達目標	①法に関する知識・理解 ②国家試験対策 ③関心・意欲・姿勢

具体的な内容		
項目		内 容
法制度の概要		社会生活における法の役割、法の形式(憲法・法律・命令・条令・規則) 衛生法規の概要
衛生行政の概要		衛生行政の意義と歴史、衛生行政の分類と生活衛生行政の内容 衛生行政を担う行政機関(環境衛生監視員含む) 復習【確認テスト】
美容師法		人に関する規定(美容師養成施設～試験)(免許と登録～義務) (業務停止、免許取消、再免許)(登録事項の変更)(管理美容師) 人に関する規定の復習【確認テスト】 施設に関する規定(美容所)(開設～衛生措置)(美容所外での業務) 違反者等に対する行政処分 罰則 行政処分・罰則の復習
関連法規		関連法規(運営・衛生・顧客に関する法律) 人に関する規定・関連法規 復習【確認テスト】
まとめ		期末テスト対策
国家試験対策		法制度の概要・衛生行政の概要 復習問題 人に関する規定 復習問題 施設に関する規定 復習問題 関連法規 復習・問題 テスト対策(国家試験過去問題)(解答・解説)

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
科目	衛生管理	実務経験の有無	○
授業形態	講義	必修選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	合計
	30	60	90
取得単位	1	2	3

授業内容	
授業概要	公益財団法人理容師美容師試験研修センター発行のテキストに基づき、公衆衛生の概念および美容業務に関する衛生管理についての講義を行う。 定期試験の他、必要に応じて適宜小テストを行い知識の習得を確認する。
学習目的 (実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか)	薬剤師又は看護師資格取得者で現場で薬学の知識を生かした技術補佐経験や患者に寄り添いサポートした実務経験がある教師が、将来、美容業に就くにあたって参考となる知識や現在の状況、情報を伝える。業務に就くうえで個人としての衛生を保つだけでなく、業を通して公衆衛生の維持と増進への責務の重要性を知る必要があり、感染症の正しい知識と拡大まん延予防対策、消毒法などを学ぶことにより、社会生活においても不安を与える実践できるということを理解できるようにする。
授業の到達目標	美容師国家試験筆記試験の合格基準を満たす知識を得る。 美容師免許取得後の業務における衛生管理の知識を得る。

具体的な内容	
項目	内 容
第1編 公衆衛生	第1編 公衆衛生 公衆衛生の概要 保健
第2編 環境衛生	第2編 環境衛生 環境衛生(環境衛生の概要) 環境衛生(空気環境) 環境衛生(衣類住居の衛生) 環境衛生(上下水道と廃棄物、衛生害虫とネズミ、環境保全) 第2編環境衛生のまとめと演習
第3編 感染症	第3編 感染症 感染症の総論(人と感染症) 感染症の総論(病原微生物) 感染症の総論(感染症の予防) 感染症の各論(主な感染症) 感染症の各論(具体的な対策の例) 第3編感染症のまとめと演習
第4編 衛生管理技術	第4編 衛生管理技術 消毒法総論 消毒法各論(理学的消毒法・化学的消毒法) 消毒法実習(各種消毒薬) 消毒法実習(理容所美容所の消毒の実際) 衛生管理技術のまとめと演習
第5編 衛生管理の実践例	第5編衛生管理の実践例
国家試験対策	国家試験の過去問題の解答解説 国家試験対策(演習と解答解説)

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
科目	保健	実務経験の有無	○
授業形態	講義	必修選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	合計
	30	60	90
取得単位	1	2	3

授業内容	
授業概要	サービス提供者として客への安心安楽を提供するため、また職業人である自身の健康のため、人体の構造や生理機能などを知ることは重要である。この授業では人体の構造や機能の基本を学び、人体への理解を深めていく。
学習目的 (実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか)	看護師として患者によりそいサポート力を発揮しつつ実務に従事した経験を持つ教員が、人体の仕組みや構造に興味を持てるように実際に自分達の生活や経験に関連付けた内容で、わかりやすく説明し、学生たちが意欲的に取り組み修得するものとする。
授業の到達目標	皮膚を含めた人体の解剖学的な構造を系統立てて理解し、それぞれの機能や代表的な疾患について説明することができる。

具体的な内容		
項目		内 容
人体の構造及び機能		1、頭部、顔部、頸部の体表解剖学 2、骨格器系 3、筋系 4、神経系 5、感覚器系 6、血液と免疫系 7、循環器系 8、呼吸器系 9、消化器系 10、1~9までの座学終了後に確認テストを実施
皮膚科学		1、皮膚構造の構造 2、皮膚付属器官の構造 3、皮膚と皮膚付属器官の生理機能 4、皮膚と皮膚付属器官の保健 5、皮膚と皮膚付属器官の疾患 6、1~5までの座学終了後に確認テストを実施
まとめ		期末テストの対策。 定期試験の実施。 試験問題の解説
国家試験対策		問題に対するアプローチ方法の共有(グループワーク) 各単元ごとの国家試験過去問の実施、解答と解説 実施回による国家試験過去問の実施、解答と解説

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
科目	香粧品化学	実務経験の有無	○
授業形態	講義	必修選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	合計
	30	30	60
取得単位	1	1	2

授業内容			
授業概要	公益財団法人理容師美容師試験研修センター発行のテキストに基づき、美容業務に関する薬剤についての講義を行う。 定期試験の他、必要に応じて適宜小テストを行い知識の習得を確認する。		
学習目的 (実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか)	薬剤師資格取得者で現場での薬学の知識を生かした技術補佐経験や薬局での接客経験、美容師での10以上の勤務経験(化粧品の販売・商品説明)を活かし、実際に扱う製品の例を紹介しながら分かりやすく説明する。美容師国家試験合格の為だけではなく、職業上、必ず使用する香粧品の知識は大切である事を伝える。		
授業の到達目標	美容師国家試験筆記試験の合格基準を満たす知識を得る。 美容師免許取得後の業務における薬剤の適切な取り扱いの知識を得る。		

具体的な内容		
項目		内 容
香粧品概論		香粧品についての概要 香粧品の法規制について
香粧品の成り立ち		水と親水性溶媒 油性原料 界面活性剤 高分子化合物・色材・香料 製品を安定させる配合原料・その他の機能性配合原料・雑貨原料 必要に応じて適宜確認テストを行う。
香粧品各論		スキンケア製品(クレンジング用香粧品・コンディショニング用香粧品・トリートメント用香粧品) メイクアップ製品(ベースメイクアップ香粧品・ポイントメイクアップ香粧品・まつげケア製品・ネイルメイクアップ製品) ヘアクレンジング用香粧品・ヘアコンディショニング用香粧品・ヘアスタイリング料 パーマ剤 ヘアカラー製品 スキャルプケア製品 必要に応じて適宜確認テストを行う。
国家試験対策		水と親水性溶媒・油性原料の復習(過去問題解答解説) 界面活性剤の復習(過去問題解答解説) 高分子化合物・色材・香料・配合原料の復習(過去問題解答解説) パーマ剤の復習(過去問題解答解説) ヘアカラー製品の復習(過去問題解答解説)

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
科目	文化論	実務経験の有無	○
授業形態	講義	必修選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	合計
	30	30	60
取得単位	1	1	2

授業内容	
授業概要	教科書「文化論」にそって、髪や化粧、服装の歴史や文化を考え、ファッション文化史日本編・西洋編での流行変遷や礼装の種類を学びます。
学習目的 (実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか)	美容専門学校理事長としての経験、また理美容教育センターでの教科書編成委員及び美容文化論委員をした経験のある教員から、美容業の歴史を理解し、さらに髪型、化粧、服装の変遷流行を学ぶ。そこに見える風俗と時代背景とのつながりを読み解き、流行のメカニズムを知り、これから時代のデザインを起こすヒントを得る。美容師国家試験科目の一つであるので、意欲的に取り組み修得するものとする。
授業の到達目標	美容師国家試験合格を目指し、専門的知識を身につけます。美容業における髪や化粧、服装の文化を理解できるようにします。

具体的内容		
項目		内 容
第1章		総論
第2章		日本の理容業・美容業の歴史
第3章		ファッション文化史 日本編 縄文・弥生・古墳時代～現代
第4章		ファッション文化史 西洋編 古代エジプト～現代
第5章		礼装の種類 和装の礼装、洋装の礼装

成績	
成績評価の方法・基準	定期試験での評価で合格点に達することとします。

基本情報			
科目	美容技術理論	実務経験の有無	○
授業形態	講義	必修選択	必修
授業時間数	1年次 90	2年次 60	合計 150
取得単位	3	2	5

授業内容			
授業概要	教科書にのっとって、美容技術を理論的に理解させ、国家試験筆記試験に向けての問題の解き方、理解度を上げていく		
学習目的 (実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか)	美容師としてヘアメイク、エステ、まつ毛エクステ等の施術を担当した後、美容師養成施設の講師として活動した経験、また、30年以上に渡る美容室勤務の中で海外でのグローバルなサロン勤務経験がある教員により、現場の現状を伝えながら、美容技術についての知識を習得させる。内容を理解しやすいよう、単元ごとにパワーポイントや試験問題のプリントを用いて授業を行うもの。美容師国家試験の合格を目指す学生の為、現場の状況を伝えながら、美容技術の知識を深めていく。		
授業の到達目標	各目次の理解度を上げ、国家試験筆記試験の合格を目指す		

具体的な内容	
項目	内 容
序章	<ul style="list-style-type: none"> ・美容技術における作業姿勢の理解 ・人体各部の名称
1章 美容用具	<ul style="list-style-type: none"> ・各美容用具の名称 ・美容用具の選定方法 ・美容用具のお手入れ方法
2章 シャンプーイング	<ul style="list-style-type: none"> ・界面活性剤の種類と内容 ・シャンプーの成分と種類 ・リンスの成分と種類 ・スキャルプマッサージの種類 ・育毛剤の成分 ・バックシャンプーとサイドシャンプーの特徴
3章 ヘアデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・幾何学的錯視の種類 ・デザインの原理
4章 ヘアカッティング	<ul style="list-style-type: none"> ・刃物の材料 ・正しい姿勢 ・パネルと頭皮の角度とカットライン ・ベーシックカットの理論 ・シザーアンドレザーのカット技法
5章 パーマネントウェーブ	<ul style="list-style-type: none"> ・毛髪の構造とウェーブが形成される仕組み ・パーマの成分 ・パーマの種類 ・パーマ技術の工程と注意点
6章 ヘアセッティング	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘアセッティングの理論 ・ヘアカーリングの分類と名称 ・カールのベースの種類とピーニング ・ピンカールの種類 ・ウェーブとカールの関係性と計算 ・オールウェーブの構成の理解

7章 ヘアカラーリング	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘアカラーの種類と成分 ・染毛のメカニズム ・色の基本と補色の組合せ ・毛髪のアンダートーンとレベル ・パッチテスト ・染毛技術の工程と注意点
8章 エステティック	<ul style="list-style-type: none"> ・エステティック概論 ・皮膚の構造 ・エステティックの工程と各内容把握 ・肌質の種類とパック剤 ・マッサージの種類 ・フェイシャルマッサージとボディマッサージ
9章 ネイル	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の種類 ・カットの形状 ・爪の名称 ・ネイル技術と道具の名称 ・手と足のマッサージ
10章 メイクアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・フェイスプロポーションと顔の名称 ・色彩とパーソナルカラー ・用具の名称と種類 ・メイク技術の工程と内容 ・ブライダルメイク ・まつ毛エクステンション
11章 日本髪	<ul style="list-style-type: none"> ・各部の名称 ・日本髪の種類 ・装飾品 ・結髪道具
12章 着付け	<ul style="list-style-type: none"> ・礼装、準礼装 ・着物の季節 ・帯の種類 ・各部の名称 ・補整と着付けの順序 ・着付け道具の名称とたたみ方 ・ウェディング

成績	
成績評価の方法・基準	定期試験を実施し、60%以上の合格を基準とする

基本情報			
科目	運営管理	実務経験の有無	○
授業形態	講義	必修選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	合計
		30	30
取得単位		1	1

授業内容	
授業概要	美容業界で働く上で、①経営者の視点での知識、②従業員の視点での知識、③顧客のために、という3視点からの知識を学んでいく。
学習目的 (実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか)	日商簿記1級、税理士簿記論などに合格し、経済、経営等の知識をもとにコンサルタント会社を10年以上経営していた経験から、美容師として働く際に役立つ専門知識だけでなく、顧客として、従業員として、経営者としての観点から普段の生活にも参考になるような知識を伝授。経営者の考え方や経営が果たす責任・役割や接客サービスについて、また「年金、健康保険、雇用保険、労働者災害補償保険等」の各種保険や資金管理・税金について学ぶ。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の経営的知識を修得させる。また、就職後、従業員として、また将来独立した際の知識も修得させる。

項目	内 容
経営者の視点	経営とは・経営者とは 理容業・美容業の経営について 資金の管理・税金について
人という資源 従業員としての視点	人という資源 健康・安全な職場環境の実現 従業員としての視点から・社会保険
顧客のために	サービス・デザイン マーケティング サービスにおける人の役割
まとめ	経営学・経済学総論 期末テスト対策
国家試験対策	税金、社会保険という重要分野を中心に、復習、過去問対策、予想問題等で実施

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
科目	美容実習	実務経験の有無	○
授業形態	実習	必修選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	合計
	450	450	900
取得単位	15	15	30

授業内容	
授業概要	教科書「美容実習」にそって、シャンプーやカッティング等の髪の毛を扱う美容技術を理解し修得する
学習目的 (実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか)	美容師としてヘアメイク、エステ、まつ毛エクステ等の施術を担当した後、美容師養成施設の講師として活動した経験、また、30年以上に渡る美容室勤務の中で海外でのグローバルなサロン勤務経験がある教員により、将来実践の現場で活用できる技術、知識を基礎から応用まで習得させるもの。カット、サロンワーク、カラー、シャンプー、ヘアメイク、メイクなど美容師としての技術全般を習得する。間違いのない基礎技術もゆっくり丁寧に学び技術を向上させる。
授業の到達目標	専門の知識を理解し、その上でウィッグを扱い、さらに人頭で基本技術を行えるように練習し修得する

項目	時間数	内 容
1章 シャンプーイング		1 クロス掛け 2 ブラッシング 3 すぎ(サイドシャンプー) 4 シャンプーイング(サイドシャンプー) 5 リンス(サイドシャンプー) 6 タオルドライとターバン(サイドシャンプー) 7 すぎ(バックシャンプー) 8 シャンプーイング(バックシャンプー) 9 リンス(バックシャンプー) 10 タオルドライとターバン(バックシャンプー) 11 トリートメント
2章 ヘカッティング		1 ワンレンジスカット 2 グラデーションカット 3 レイヤーカット 4 セイムレンジスカット 5 レザーカット
3章 パーマネントウェーピング		1 ブロッキング 2 ワインディング 3 ワインディングのバリエーション
4章 ヘアセッティング		1 ヘアカーリング 2 ヘアウェービング 3 ローラーカーリング 4 ブロードライスタイリング 5 アイロンセッティング 6 アップスタイル
5章 ヘアカラーリング		1 酸化染毛剤 2 酸性染毛料 3 塗布技術のいろいろ
6章 エステティック		1 エステティック備品類 2 フェイシャル及びデコルテマッサージの一例 3 背中のマッサージ 4 フェイシャルパックとマスク

7章 ネイル技術		1 ネイルケア 2 アーティフィシャルネイル 3 ネイルアート 4 手と足のマッサージ
8章 メイクアップ		1 スキンケア 2 ベースメイクアップ 3 アイブロウメイクアップ 4 アイメイクアップ 5 リップメイクアップ 6 まつ毛エクステンション
9章 着付け技術		1 留袖着付け技術 2 振袖着付け技術 3 男子礼装羽織、袴着付け技術 4 女子袴着付け技術 5 打掛着付け技術 6 伝統的な花嫁化粧

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
科目	スキルアップ	実務経験の有無	○
授業形態	実習	必修選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	合計
	90	60	150
取得単位	3	2	5

授業内容			
授業概要	社会人として必要な、ルール、マナー・モラルを学び実践しスキルを身につける授業		
学習目的 (実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか)	経営者として美容室運営とスタッフ教育全般をし、現場においても理容師として30年近くの実務経験がある教員により、現場で必要な挨拶や返事、お客様応対等の接客の基礎を学ぶ。お客様の立場、気持ちに寄り添い、要望をくみとることの必要性をわかりやすく伝えていく。		
授業の到達目標	美容室に就職してすぐに必要な接客接遇の理解、習得をし身に付けさせ即戦力となれる人材となることを目標とする。▣		

具体的な内容		
項目		内 容
就職前教育		ルール・マナー・モラル
		マナーとは
		モラルとは
		挨拶・返事
		所作
		言葉遣い
		面接
接遇		接遇とは
		声かけ、言葉使い
		表情、笑顔、態度
		身だしなみ
		実践練習

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、レポートの提出等を総合的に判断し、成績評価を行う。

基本情報			
科目	トータルビューティー	実務経験の有無	○
授業形態	実習	必修選択	選択
授業時間数	1年次	2年次	合計
	120	90	210
取得単位	4	3	7

授業内容	
授業概要	美容にまつわる様々な分野、職種、資格取得についてを学び、美容をトータルで理解する
学習目的 (実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか)	販売や接客マナーを化粧品会社やホテルで学び、メイク協会で専門的な知識技術を修得し自宅サロンでそれらを提供していく経験、ブライダルネイルを長年担当した経験、15店舗を展開する経営者として独立支援セミナーなども開催した経験のある教員陣から、メイク、ネイル、まつ毛エクステ、着付け、エステ等を学び、各資格取得を目指すことができる。トータルで美容を理解し資格を取得することから将来の選択肢を広げる。
授業の到達目標	トータルで美容を理解し、カウンセリング力、道具の扱い、技術力を見に付ける

具体的な内容		
項目	時間数	内 容
まつ毛エクステンション		まつ毛エクステンションの用具
		衛生管理
		保健
		カウンセリング
		まつ毛エクステンション技術
ネイル		ネイル基礎
		ネイル応用
		ジェルネイル基礎
		ジェルネイル応用
メイク		ベースメイク
		自己分析スキンケア
		アイブロウ アイシャドウ、アイライン、ビューラー、マスカラチーク・リップ
		メイク仕上げ
		イメージメイク
美容師		お通し シャンプー ドライ セット カラー施術 カラーシャンプー カット ヘッドスパ カラーシャンプー
着付		浴衣のきつけ・たたみ方
		浴衣のきつけ(自装・他装)
		体型補整からの説明(他装)・(外出着)小紋の着装・たたみ方
		小紋の着装・訪問着の着装
		訪問着の着装・総復習
エステティック		エステティック概要
		皮膚の解剖
		エステティック概要
		カウンセリング
		マッサージ理論図マ学圖ルフハンドケア
		ハンドトリートメント(座位)
		ドライヘッドケア (座位)
		フェイシャルトリートメント

ヘアーアレンジ		ブロッキング 一束にまとめる 毛先のアレンジ 和風シニヨン アイロン 創作アレンジ
研究授業		課題点を見つける 実技実習 点検確認 改善計画作成 プラン ドウ チェック アクション
検定対策		ジエル検定初級タイム取り マツエク検定タイム取り メイク検定タイム取り

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、レポート提出等、作品発表会や校内コンテストで総合的に成績評価を行う。

基本情報			
科目	ビューティーエッグ	実務経験の有無	○
授業形態	実習	単位	選択
授業時間数	1年次	2年次	合計
	120	120	240
取得単位	4	4	8

授業内容	
授業概要	将来や授業に必要な基礎を学びます
学習目的 (実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか)	美容師としての経験、カラーの知識や診断力を養うメイクアップ業務を自宅で行っていた経験を持つ教員により、美容に欠かせないと思われるパーソナルカラーを学び身に付ける。社会人としての言葉使いや一般常識を学び、就職に向けて活動していく。
授業の到達目標	色の基本を学び、美容を学ぶ上で授業を理解しやすくなること。社会人としての常識や接客を学びつつ、就職に向けて現場の方からいろいろなことを見て聞いて学び、就職してからのミスマッチを無くす。

具体的な内容	
項目	内 容
接客	社会人としての基本
	正しい動作
	言葉づかい
	接客の基礎
	電話対応の基礎
	一般常識、各種マナー
ガイダンス	就職ガイダンス
	個別説明
パーソナルカラー	パーソナルカラー概要・パーソナルカラーとは何か
	好きな色と似合う色
	色の三属性
	色相環・トーンマップ
	トーンの仕組みを知る
	パーソナルカラーのグループ(三属性)
	似合う色の基準
	ドレーピング体験
	パーソナルカラーのグループ(イメージでとらえる)
	系統色名・慣用色名グループ分け
	色の対比・反射・吸収
	柄・素材・アクセサリーの色や質感でのグループへの振り分け

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、レポート提出で評価する